



郡中学校通信 No3

学校教育目標 「 自ら行動、達成して感動 」
校 訓 「 自主・自律・連帯・創造 」

R 5. 4. 1 4 発行 文責 校長 松崎大樹

郡中ビレッジ 美・礼・時

チーム郡 思いを力に!

郡中二つ目の合い言葉「郡中ビレッジ 美・礼・時」の時は、 これからの「時代を生き抜くための学力向上のための学力対策」です

現在の社会状況

- 情報化・AIの台頭 ○グローバル化
- 少子化・高齢化の進展 ○労働人口の減少
- 社会保障制度の存続困難
- SDGs=2030年までに解決すべき17の目標と169のターゲット ○ポピュリズムの台頭
- ロシアによるウクライナ侵攻
- 地球温暖化や感染症等の新たな危機



様々な課題が山積する先行き不透明な未来においても、多様な人々と協働する中で自分なりの生き方を創造し、持続可能な社会を作り上げることのできる力を生徒一人一人に育むことが大切です。

そのような目的達成のために登場したのが、全国の全ての中学校で令和3年度から実施されている「新学習指導要領」なのです! 令和5年度の今年で3年目となります。

今回の新学習指導要領では
2030年を想定して、将来の社会の形成者として自立し、活躍できる生徒を育てていくという教育の新しい大きな枠組が示されています。

**そこで令和5年度の郡中学校の授業改善は、
生徒の実態を踏まえ、下記のように取り組んでいきます!**

令和5年度の研究主題・副題 自ら学びに向かう生徒の育成

～基礎・基本的な学力の定着と個別最適な学びの構築を通して～



各種学力検査の結果から、本校生徒の実態を①学力の二極化が起きている。②家庭学習の取組が不十分。③既習事項の定着や活用が不十分。と判断し、その改善に向けて、毎時間の授業の中で、導入における「めあて」、展開における「深める」、終末における「まとめ」の場面を設定し、そのねらいのもとに日々の授業実践に取り組んでいます。

めあて

本時で何を学ぶのか(めあて=学習課題)を生徒にしっかりと捉えさせる。

深める

自分の考えを持つ場面や他者と対話する場面を設け、自分なりの解決方法を深める中で、本時の学習課題に取り組ませる。

まとめ

授業を通して生徒に「何がわかるようになったのか」「どんな変容があったのか」「もっと考えたいこと」について自覚させる場面です。その為に「振り返り」活動を充実させます。

上記のように令和5年度の研究主題・副題を決定し、毎時間の授業実践に努めることと併せて、全職員で次の3点を重点事項として授業改善を行っていきます。

- ①各教科の基礎・基本的な内容を定着させる。
(タブレットや反復学習の活用、読解力の視点を含んだ取組)
- ②「振り返り」活動を徹底し、授業改善に生かす。
学んだことを基に、生徒に「何がわかるようになったのか」「どんな変容があったのか」「もっと考えたいこと」について自覚させる。
例：学びの変容を振り返る。交流を振り返る。
活用問題に取り組む。次に授業や学習活動につなげる。
- ③特別の教科「道徳」における協働性の推進
→各先生方の特性を活かしながら、全てのクラスに支持的風土の構築を目指す。



資質・能力の三つの柱

学校人生や社会に生かす
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

決戦の日が来週火曜日! 負けられない戦い、ここにある!

計画的な学習の中で、テスト対策しっかり取り組んでいきましょう。

4月18日(火) 3年生全国学力・学習状況調査
(国語、数学、英語)
2年生長崎県学力調査
(国語、数学)
1年生課題テスト

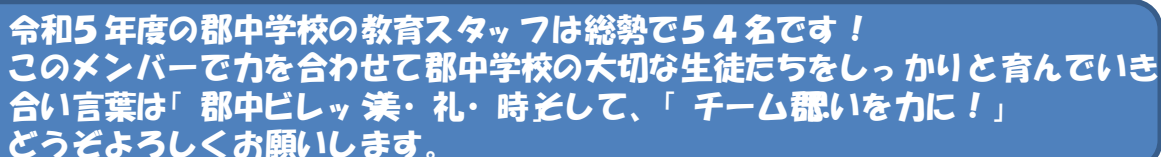
4月28日(金) 3年生全国学力・学習状況調査
(話すこと、質問紙調査)



保護者の皆様へ 新しい学年のスタートの中で、家庭学習の習慣化へのご協力をお願いします!

中学校の学習では、予習と復習が大切であり、その為の学習時間を確保する「家庭学習の習慣化」がとても重要になってきます。また、この「家庭学習の習慣化」がお子様方の進路実現に大きな力を与えてくれると共に、その確立のためには、学年・学級が新しくスタートするこの春の時期が有効だと言われています。ご家庭でも、お子様方の将来の夢や希望について話題にいただき、その実現のための「家庭学習の習慣化」に向けて、しっかりサポートいただければ幸いです。よろしくお願いします。



[illegible]

教育目標 「自ら行動、達成して感動」 校訓 「自主・自律・連帯・創造」

[illegible]

これは「二刀流」でお馴染みのWBCやアメリカMLBで大活躍している大谷翔平選手の言葉です。まさに今の大谷選手を体現しているような言葉だと感じています。何事にも諦めない気持ちをもって取り組むことが大切であることを、この言葉から改めて感じ取ってほしいと思っています。